

## 乳幼児健診事後措置のシステム化に関する研究

### — 3才児健診で追跡観察にしばしばまわされる項目の検討 —

分担研究者 神谷定茂（鳥取県衛生環境部）  
研究協力者 牧野礼一郎（鳥取県立中央病院）  
安東吾郎（ ” ）  
竹下研三（鳥取大医学部）  
尾崎新平（鳥取県衛生環境部）

#### はじめに

3才児健診で問題となる内容は、アトピー、湿疹、肥満といった慢性的内科的疾患と、ことばのおくれ、指しゃぶり、夜尿、熱性けいれんといった神経、行動上の問題とにしばられる。中でも、ことばのおくれ、指しゃぶり、夜尿などは一般の医療機関では十分な対応ができていないだけに、現場での医師、保健婦に求められる指導の比重は大きい。そしてこれらはしばしば追跡観察とされ、いつの間にかうやむやになってしまっている傾向がある。今年度は、この問題に焦点を絞り、指しゃぶり、夜尿とことばの問題があったケースについて追跡した結果をまとめ報告する。

#### 1 指しゃぶりと夜尿

##### 1. 目的

3才児健診の事後措置でひとつの問題点となる、指しゃぶりと夜尿について、①4才と5才ではどう変化しているか、②親の対応と環境要因はどうなっているかについて検討を行った。

##### 2. 対象および方法

対象は米子市の3才児健診（3才1カ月児）に昭和54年5月、6月、7月に受診した510例から指しゃぶりを訴えた138例（23.1%）と週一回以上の夜尿を認めている161例（31.5%）である。これら児の親にアンケート用紙を送付し、それぞれの1年後、2年後の変化と親の対応および習癖のない対照群との性差や養育環境の差などについて検討を行った。

#### 3. 結果

指しゃぶり、夜尿について1年後、2年後に関するアンケートの回収率とそれぞれの変化はTable 1の通りとなった。変化の内容は、「消失」：問題行動が現在認められない。「軽減」：残存しているが、その程度は健診時より軽い。「不変」：健診時と変りない。「悪化」：健診時より悪化した、の4段階に分類した。

指しゃぶり、夜尿とも80%前後の児が2年後までには改善を示していた。指しゃぶりが心配されている児、138例のうち46例（33.3%）には他の習癖が合併しており、その大部分の児37例（80.4%）が夜尿であった。指しゃぶり、夜尿が心配されている児と対照との性差、養育環境などの比較ではTable 2の通りとなった。夜尿で男児に多い（ $P < 0.05$ ）以外、夜尿、指しゃぶりともおもな保育者の差（母とそれ以外）、母の就業の有無、同胞の有無との間に差はなかった。指しゃぶり、夜尿について、消失、軽減、不変、悪化した児にわけ、おもな保育者の差、母の就業の有無、祖父母の同居の有無、兄弟の有無、弟妹の有無について検討を行ってみた。ともに有無差はみられなかった。

Table 1 指しゃぶりと夜尿の1年後と2年後の変化について

		消 失	軽 減	不 変	悪 化	計
指しゃぶり	男	9	8	12	0	29
	女	12	12	13	0	37
	計	21	20	25	0	66
	%	31.8	30.3	37.9	0.0	100.0
1年後	男	5	11	4	0	20
	女	2	5	3	0	10
	計	7	16	7	0	30
	%	23.3	53.3	23.3	0.0	100.0
夜 尿	男	19	20	8	4	51
	女	12	9	2	1	24
	計	31	29	10	5	75
	%	41.3	38.7	13.3	6.7	100.0
1年後	男	14	3	3	1	21
	女	5	5	0	2	12
	計	19	8	3	3	33
	%	57.6	24.2	9.1	9.1	100.0

アンケート回収率：指しゃぶり1年後76.8%、2年後63.8%、夜尿1年後73.6%、  
2年後74.0%

Table 2 指しゃぶり児・夜尿児の性差・保育環境について（対照児との比較）

	性 差		おもな保育者		母の就業		同 胞		計
	男	女	母	母以外	有	無	有	無	
指しゃぶり	73	65	113	25	39	99	86	52	138
%	52.9	47.1	81.9	18.1	28.3	71.7	62.3	37.7	100.0
対 照	198	175	307	66	96	277	264	109	373
%	53.1	46.9	82.3	17.7	25.7	74.3	70.8	29.2	100.0
夜 尿	99★	57★	121	35	47	109	114	42	156
%	63.5	36.5	77.6	22.4	30.1	69.9	73.0	27.0	100.0
対 照	172★	183★	300	55	88	267	244	111	355
%	48.5	51.5	84.5	15.5	24.8	75.2	68.7	31.3	100.0

★ P < 0.05

#### 4. 考擦

指しゃぶり、夜尿は従来よりあまり心配しないのでよいもの、放置しておいてよいものとされてきた。事実、今回の調査結果でも、8割の児が2年後には何らかの軽快傾向を示していた。従来の考え方で今日もほぼ対応しておいてもいいように思われる。しかし、今日の乳幼児をめぐる社会環境は従来にみられなかった変化をとげた。行動の制限と人との接触の制限が、従来なら社会の常識の中で解決されるこのような行動問題にうまく対応していけるのかは慎重に考えておかねばならない。夜尿の中に少数とはいえ一時的に悪化する傾向にある児の存在は従来にもあったと経験するが、その実数はわかっていない。このような児がうける心理的ストレスを今日の社会が十分にカバーしきれるかは慎重に考えておかねばならないことであろう。

## II ことばのおくれ

### 1. 目的

3才児健診で2語文がでていない児はことばの遅れと判断される。彼らはほとんど追跡観察もしくは精検にまわされ、しばしばそのままになってしまう。彼らの頻度、発育歴、他の発達評価との関係などを検討し、事後を考える場合の健診時点での参考資料をうることを目的とした。

### 2. 対象および方法

昭和55年4月より56年3月までの鳥取県内の3才児8500名のうち健診を受診した7509名(87.9%)を対象とした。3才児健診時点で2語文がでていない、1才6カ月時点で有意語がでていなかったの項目のどちらがあっても遅れありとし、さらに発達アンケートでの未到達項目、親の評価、現場での観察などから医師がおくれの疑いがあると判断したものをことばの遅延滞児とした。遅滞児について、問診での発育歴を対照児と比較した。また、発達アンケートなどからその症状分類を試みた。

発達アンケートは以下の12項目について、保護

者に「はい」・「いいえ」・「わからない」で記入を依頼した。

- 片足で2・3秒たてますか。
- まねて○を書きますか。
- 上着を自分で脱げますか。
- ままごとでお父さん、お母さん役ができますか。
- 自分の名前(姓も、名も)いえますか。
- 大きい小さいがわかりますか。
- でんぐり返りができますか。
- はしを使って食事をしますか。
- 年下の子の世話をやきたがりますか。
- ぼく、わたしを使いますか。
- 顔をひとりで洗えますか。
- 赤、青、黄が全部わかりますか。

この中から、ことば、行動に関係の深い項目を7項目(ままごと遊び、自分の名前、大小、年下の子の世話、ぼく・わたし、色、洗顔)をとりあげ、検討の対象項目とした。なお、健診で異常なしとされた児の各月令ごとの発達アンケートの通過率はTable 3のとおりである。

### 3. 結果

上記の方法によりことばの遅れありとされた児は全体で133名であった。これは対象児7509名中1.79%となった。

133名の性差は男99名、女34名と男児が有意に多かった。地域差はなかった。

ことばの遅滞児について親の近親婚、母の健康、妊娠経過、分娩経過、新生児の状況、出生順位、親の職業、保育者、けいれん発作の合併、運動発達や行動問題などについてみるとTable 4のとおりとなった。運動発達遅滞の合併、行動異常の合併が有意である以外、有意差はみられなかった。しかし、全体として少しずつことばの遅滞児の方に周生期などでの異常の率がやや高い傾向を示した。しかし、これらの異常歴はいずれも運動発達遅滞を合併した14名に多く重なっており、運動発達遅滞を合併しない児のみで検討すると出生順位を除いてすべて差がみられなくなった。

133名について、次の5群にグループ化して、男女比と出生順位について検討を行ってみた。「A群」：3才で2語文がでておらず、かつ運動発達遅滞を合併している。「B群」：3才で2語文がでておらず、かつアンケート7項目中4項目以上ができていない。「C群」：3才で2語文がでておらず、アンケートでの未到達項目は3項目以下。「D群」：3才で2語文はできているが、アンケートでの未到達項目が3項目以上ある。「E群」：A・B・C・D群を除く残り、予後調査が不十分であり、各群の最終診断はできていないが、A群は運動発達遅滞を伴う精神遅滞児、B群は運動発達の遅滞はないが、ことばの表出のみならず、理解力もおちており、精神遅滞が疑われるグループ、C群は表出性の言語発達遅滞児、D群にはB群の軽症例とC群の一部が含まれていると考えられる。結果としてTable 5の通り、B・C・D・E群に明らかに性差がみられており、かつ、C・D群では第1子より第2子に多く発症している結果になった。とくにC群では有意差を示した。CやD群の頻度は全3才児での罹病率にほぼ一致すると考えられる。

#### 4. 考 察

3才児健診でことばの遅滞児については運動発達遅滞を合併していない児のみをとりあげると、健診で通常聴取される周生期を中心とした問診からの情報がまったく情報として意味をもっていないことがわかった。かつ、3才児での2語文を中心とした発達遅滞の目立つグループをみると、男児が女児の3倍に及んでいることも明らかとなった。とくに中核となるグループ(B・C・D群)では5倍の率になった。これらは欧米言語圏では報告のみられない点である。

さらに、発達性表出性言語障害(Rutter)と呼ばれる言語発達遅滞児が大部分を占めると考えられるC群とそれに近い遅滞像をもつD群において、出生順位が第2子に目立つことが注目された。とくにC群の第1と第2子の逆転は有

意であった。このことは男女差という生物学的因子の上に、生活環境上の因子が加わって生じているとしか説明ができず、欧米やわが国での報告にこれまで一度も述べられたことのない点であり、とくに注目すべきことであると考えられた。

#### お わ り に

3才児健診でしばしば追跡観察にまわされる行動上の問題とことばの遅滞に関する問題に焦点をしばり、前者はその予後とそこに関与する因子の分析、後者はその罹病率とそれらの出生、生活環境に関する因子との関係について検討した。前者は夜尿の一部を除いてほぼ問題は生じておらず、現場での指導で目的が達せられること、後者はいくつかのグループわけにして適切な対応が求められることが明らかとなった。なお、これまでわが国で報告のない表出性言語発達遅滞児の特徴についても報告した。

Table 3 健診で異常なしとされた児

(6951名)の発達アンケートの通過率(%)

生活月令を3カ月ごとに区分している。わからないは男女をあわせた数値。

		3.0～3.2	3.3～3.5	3.6～3.8	3.9～3.11
片足でたつ	男	77.1	86.4	85.7	93.5
	女	86.0	92.1	91.3	96.7
わからない		16.2	8.8	10.4	4.3
○をかく	男	94.3	94.4	96.7	95.7
	女	97.7	98.7	98.7	97.8
わからない		2.8	2.6	1.8	2.2
上着を脱ぐ	男	83.9	88.3	90.7	89.1
	女	94.9	96.8	98.0	98.9
わからない		2.5	1.8	1.4	2.7
ままごと役	男	47.4	46.5	54.1	63.9
	女	74.2	75.2	81.2	89.1
わからない		30.9	31.5	26.5	22.3
名前をいう	男	91.9	95.4	96.4	97.8
	女	97.6	97.8	98.8	98.9
わからない		1.4	1.2	0.9	1.1
大きい小さい	男	94.1	96.1	97.1	100.0
	女	95.2	96.9	97.8	100.0
わからない		4.0	2.3	2.2	0.0
でんぐり返り	男	87.8	90.6	90.3	90.2
	女	85.3	86.2	86.7	93.5
わからない		8.1	6.8	7.5	3.8
ハシの使用	男	89.0	93.5	93.6	94.6
	女	96.9	97.5	97.7	98.9
わからない		1.1	1.0	1.0	0.5
年下の子の世話	男	53.3	54.8	55.7	54.3
	女	71.7	72.2	74.0	78.3
わからない		24.3	24.3	23.4	21.7
ぼく、わたし使用	男	72.2	75.0	76.9	83.7
	女	69.7	72.5	70.0	80.4
わからない		4.5	4.0	4.6	6.0
洗顔	男	83.6	84.0	85.8	92.4
	女	89.1	89.3	90.7	98.9
わからない		3.7	3.7	3.5	0.5
赤・青・黄	男	66.6	69.9	79.2	82.6
	女	69.0	75.2	80.4	87.0
わからない		15.3	12.4	8.9	9.2

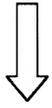
Table 4 ことばの遅滞児の発育・出生・環境・合併症 (%)

	遅滞児 (n=133)	対 照 (n=6951)
親の近親婚	1. 3	1. 3
母の慢性疾患	5. 2	4. 5
妊娠中の合併症	22. 4	19. 5
母の既往の異常妊娠	15. 7	13. 4
在胎週数異常	9. 0	6. 4
分娩異常	17. 2	16. 9
低出生体重	6. 0	5. 6
出生時仮死	3. 7	2. 2
新生児期異常	13. 4	9. 8
出生順位第 1 子	36. 8	43. 7
第 2 子	43. 6	41. 2
第 3 子～	19. 6	15. 1
親の職業サラリーマン	74. 6	73. 6
自営業	11. 9	10. 2
農業	6. 0	5. 7
他	7. 5	10. 5
保育者 母	52. 2	49. 2
祖父母	26. 1	26. 7
保育所	20. 9	23. 3
他	0. 8	0. 8
けいれん発作合併	9. 0	8. 7
運動発達遅滞合併	10. 5	1. 4 P < 0.005
行動異常合併	26. 3	7. 4 P < 0.005

Table 5 ことばの遅滞児の内容別にみた健診児での頻度、性差、出生順位

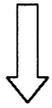
群	A	B	C	D	E	計	対 照
児 数	14	25	26	22	46	133	6951
頻 度 ( $\times 10^{-3}$ )	1.9	3.3	3.5	2.0	4.8	17.7	
性 男	8	20	23	18	30	99	3464
女	6	5	3	4	16	34	3487
比	0.57	0.80※	0.89※	0.82※	0.65	0.74※	0.50
出生順位 第1子	8	14	5	8	14	49	3073
第2子	2	7	17※	13	19	58	2844
第3子～	4	4	4	1	13	26	1034

※  $P < 0.05$



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

3 才児健診で問題となる内容は、アトピー、湿疹、肥満といった慢性の内科的疾患と、ことばのおくれ、指しゃぶり、夜尿、熱性けいれんといった神経・行動上の問題とにしばられる。中でも、ことばのおくれ、指しゃぶり、夜尿などは一般の医療機関では十分な対応ができていないだけに、現場での医師、保健婦に求められる指導の比重は大きい。そしてこれらはしばしば追跡観察とされ、いつの間にかうやむやになってしまっている傾向がある。今年度は、この問題に焦点をしぼり、指しゃぶり、夜尿とことばの問題があったケースについて追跡した結果をまとめ報告する。